



**EXPO
2025**
OSAKA, KANSAI, JAPAN



大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト
～2025年大阪・関西万博をインパクトとした「SDGs先進都市」の実現に向けて～

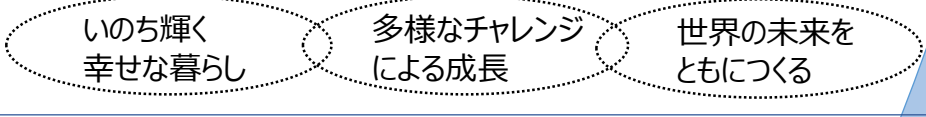
大阪府・大阪市

「SDGs未来都市」全体計画の概要と「自治体SDGsモデル事業」の関係

■ 将来ビジョン

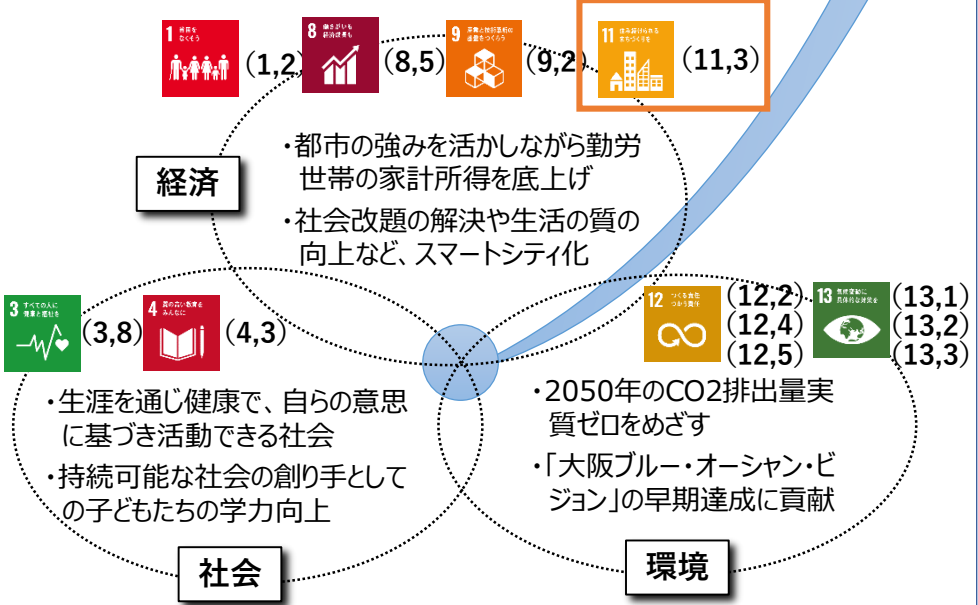
万博開催都市として、一人ひとりがSDGsを意識し、自律的に17のSDGs全ての達成をめざす「SDGs先進都市」の実現に向け、取組みを進めていく

■ 2030年のあるべき姿



■ あるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

17のSDGs全ての達成をめざす中で、とりわけ、課題を克服すべきゴールや世界に貢献できるゴール（重点ゴール）に注力



■ 自治体SDGsの推進に関する取組

あるべき姿の実現に向けた優先的なゴールやターゲットを踏まえ、次の先導的な取組みを実施。様々なステークホルダーとの連携を広げていく。

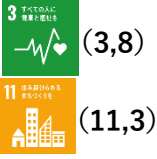
1 おおさかええまちプロジェクト

・高齢者の介護予防にもつながる活躍の場を、プロボノによる直接的支援等を通じた住民主体の支え合いにより構築し、生涯を通じ健康でいきいきと暮らし続けることのできる社会の実現をめざす



2 健康寿命の延伸

・10の健康づくり活動「健活10」を活用した健康づくりや、電子マネーが当たる「おおさか健活マイレージ“アスマイル”」の展開など、オール大阪での健康づくりの機運醸成と社会環境整備を推進していく



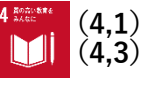
3 子どもの貧困対策

・子どもの将来が生まれ育った環境で左右されることのないよう、子どもの居場所や企業、社会福祉施設等のネットワークの運営で、企業等から物資提供の支援を受ける仕組みづくり等に取り組む



4 府立学校等のスマートスクール化に向けた取組

・教育の質の向上を図るため、知的障がい者支援学校におけるVRを活用したソーシャルスキルトレーニングや、学習履歴や出欠・生活指導状況の可視化など、スマートスクールモデルを確立



5 海洋プラスチックや気候変動の問題解決に向けた環境技術イノベーションの戦略的な促進と普及に向けた取組

・化石燃料に依存しないプラスチック等の循環利用技術など、環境先進技術シーズ調査や、効率的な空調システム実用化など、環境技術のイノベーションの戦略的促進と普及を図る



これら、重点ゴールを中心にSDGsの取組みを進める中で、最も広く様々なステークホルダーに関りがあり、他の自治体等への波及も見込まれ、三側面の統合効果が創出されるSDGsの特性をわかりやすく体現できる事業を、「自治体SDGsモデル事業」として取り組んでいく

※ 重点ゴールの分析手法が「第3回ジャパンSDGsアワード」受賞

【目的】

- 日本で初めて大阪で開催された「G20大阪サミット」の象徴的レガシーである「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン（※）」を世界に先駆けて先導する

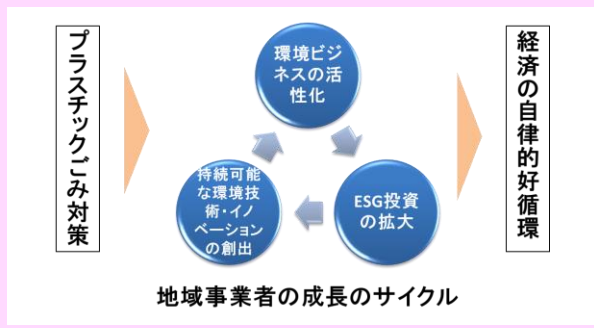
※ 2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにすることをめざす世界共通のビジョン

【概要】

- 経済、社会、環境という三側面から、3R（リデュース、リユース、リサイクル）などの普及啓発や、環境先進技術シーズ調査、海ごみの回収などに府域全体で幅広く取り組み、それらの成果が集約された具体的な行動の一つとして、「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」を確立していく

① 経済面の取組

- ①-1 海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業
- ①-2 バイオプラスチックビジネス等推進事業
- ①-3 国連環境計画国際環境技術センター（UNEP-IETC）との連携事業
- ①-4 水・環境技術の海外プロモーション事業



② 社会面の取組

- ②-1 マイボトル・マイバッグの普及促進
- ②-2 公共空間における給水スポット設置事業
- ②-3 大阪湾の環境改善と府民の環境意識向上
- ②-4 環境問題に取り組む若者の育成
- ②-5 資源集団回収活動によるコミュニティビジネスの振興



無料給水機の設置



マイバッグ協定

③ 環境面の取組

- ③-1 海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業
- ③-2 大阪湾におけるマイクロプラスチック、海洋漂着ごみの実態調査
- ③-3 大阪湾の海ごみの回収事業
- ③-4 ごみの減量と3Rの啓発推進事業
- ③-5 小・中学校での「おおさか環境科」の実施



大阪湾のマイクロプラスチック調査の様子

三側面をつなぐ統合的取組

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

- ①「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の取りまとめと推進体制の構築
- ②「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の確立
- ③モデル事業をはじめとするSDGsの取組みに関する情報発信と国際協力の推進

『「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業』の構成

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現等に貢献するための計画を取りまとめ、推進体制の構築を図り、同計画に基づきプラスチックごみの資源循環を推進するとともに、大阪の取組みを国内外に発信する事業を実施。

① 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」
実行計画の取りまとめと推進体制
の構築

・実行計画の取りまとめ、推進体制の構築



・三側面の統合的マネジメント、
全体最適化



② 「地域・事業者の連携による
新たなペットボトル回収・リサ
イクルシステム」の確立

・ペットボトルを「有価物」として
回収・運搬・再資源化



・売却益の地域還元、活性化
※環境省とのモデル事業で効果検証済



③ モデル事業をはじめとする
SDGsの取組みに関する情報
発信と国際協力の推進

・自治体SDGsモデル事業の成果等
を国内外に情報発信



・好事例の他地域への広がり、
途上国の環境問題解決に貢献



①「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の取りまとめと推進体制の構築

◆背景

- プラスチックごみによる海洋汚染は、地球規模の課題となっており、生態系への影響も懸念される。
- 2050年までに海洋中に存在するプラスチックの量が魚の量を超過するとの試算（重量ベース）が報告された（ダボス会議）。

（プラスチックごみによる海洋汚染の現状）



出典：環境省



出典：環境省



出典：UN World Oceans Day

◆これまでの取組

<2019年1月>

大阪府市共同で「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」

<2019年6月>

G20大阪サミットにおいて、

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が採択

（おおさかプラスチックごみゼロ宣言）

（G20大阪サミット）



出典：外務省

◆「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の取組

- (1) 海洋プラスチックごみの発生抑制、実態把握、回収・処理
- (2) 新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの確立
- (3) SDGsの取組みに関する国際協力推進
- (4) 大阪の豊かな水環境を守る取組み
- (5) あらゆるステークホルダー（市民・事業者など）の連携

▶「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現

▶ SDGsの達成（経済・社会・環境の三側面の統合的向上）

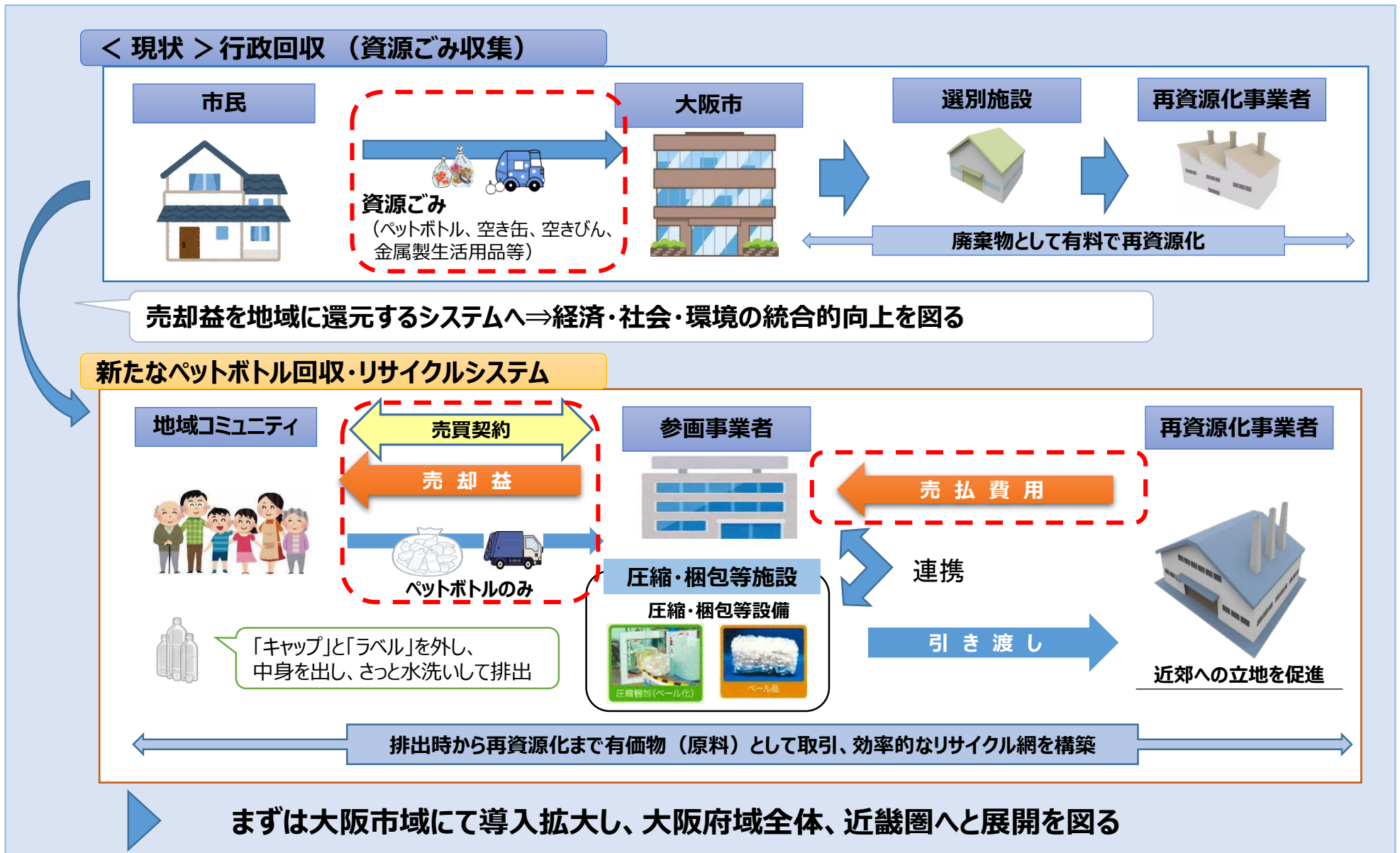
（淀川における清掃活動）



（楽しい水辺教室）



②「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の確立



②「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の確立



Plastics Smart

同システムに取り組むにあたり、国（環境省）と連携した「プラスチックの資源循環に関する先進的モデル事業」を実施

事業概要

- ◆目的：環境省と連携して、他の地域や自治体での実施に向けた課題整理、検証を行う
- ◆時期：令和元年10月（1か月間）
- ◆地域：2地域（小学校区単位） ◆人口：9,573人（4,170世帯）

主な結果

分別排出の向上	回収量	適正排出状況	地域への還元
<p>焼却されるごみの中に含まれるペットボトルの割合が大幅に減少 約22% ⇒ 約4%</p> <p>※新たなペットボトル回収開始前後 (R1年9月 ⇒ 10月)</p>	<p>回収量 約28%増加</p> <p>1,479kg ⇒ 1,900kg (H30年10月) (R1年10月) ※2地域合計</p>	<p>約84%が 適正排出^(※)を実施 ＜従来より37%増加＞</p> <p>※「キャップ」と「ラベル」を外し、 中身を出し、さっと水洗いして排出</p>	<p>約4千～5千円/月 を還元</p> <p>(1地域あたり)</p>

モデル事業実施地域の住民アンケートより

ごみをきれいに捨てる意識が高まった
捨てるものにも愛を感じる

全国に広まるとよいと思う

地域コミュニティ内での
つながりが深まる



ラベルとキャップを外して排出



集合住宅では専用箱により排出

③モデル事業をはじめとするSDGsの取組みに関する情報発信と国際協力の推進

- 国連環境計画国際環境技術センター(UNEP-IETC)等と連携して、プラスチックごみの削減など、大阪のSDGsに関する取組みを国内外に発信。
- 情報発信を通して、市民・事業者に対して、環境保全への認識と地球規模での環境問題の理解を深め、SDGsに関する取組みを促進する。

大阪のSDGsの取組み

<ペットボトル回収・リサイクルシステムの構築>



<その他のモデル事業の取組>



- ◆ 先進事例、実施成果の蓄積
- ◆ 自治体SDGsモデル事業 等

ステークホルダーズミーティング



- ◆ SDGsの先進的/好事例の選定
- ◆ 様々な主体との連携協働の提案
- ◆ 情報発信方法や海外展開の提案

情報発信



国内外の国際会議等



UNEP-IETCのネットワークの活用

- ◆ 好事例の他地域への拡大
- ◆ 途上国で顕在化する環境問題の解決への貢献

経済、社会、環境の各側面の相乗効果

経済面

- 海洋プラスチックごみ問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査等
- バイオプラスチックビジネス等の推進
- 海洋ごみ対策などの国際会議等の開催
- 水・環境技術の海外プロモーション

- 資源循環ビジネスの活性化
- 企業社会における環境意識の高まり
- 都市魅力の向上等による交流人口の増加

社会面

- マイボトル・マイバッグの普及促進
- 公共空間における給水スポットの設置
- 大阪湾の環境改善と府民の環境意識向上
- 環境問題に取り組む若者の育成
- 資源集団回収活動によるコミュニティビジネスの振興

- 自律的な地域コミュニティの運営
- 資源循環ビジネスの創出等に伴う雇用の増加、女性や高齢者など多様な人材の活躍、定住人口の増加

- 環境に配慮した製品やサービスの充実
- ごみの減量や温室効果ガスの排出削減
- 開発途上国の環境問題解決に貢献

三側面をつなぐ統合的取組

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

- 環境保全を通じた地域コミュニティの活性化
- 地域への愛着の醸成
- 環境問題に取り組む次世代の育成

- 環境ビジネスの活性化
- 持続可能な環境技術・イノベーションの創出
- ESG投資の拡大

- 海洋プラスチックごみ問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査等
- 大阪湾におけるマイクロプラスチック、海岸漂着ごみの実態調査
- 大阪湾の海ごみの回収
- ごみの減量と3Rの啓発推進
- 小中学校における環境教育

環境面

- 自律的な環境配慮行動の広がり
- 分別排出率の向上、ごみの減量
- 環境保全活動の担い手増加
- 温室効果ガスの排出削減

三側面をつなぐ統合的取組の自律的好循環の具体化に向けて

◆事業の大きな流れ

- ① 大阪市内で参画事業者を募集し、応募事業者と大阪市内が事業連携協定を締結
- ② 協定を締結した参画事業者が地域コミュニティと契約を行い、民間資金ベースでペットボトルの回収・リサイクルを実施
- ③ 参画事業者が再資源化事業者から得た売払費用から運搬コスト等を差し引いた売却益を地域に還元

◆自律化に向けて

1. モデル事業実施期間（3年間）

- 初年度に市内全域をカバーできる圧縮・梱包等設備を整備（←設備導入経費の一部を支援することで基盤整備を加速）
- 3年間でリサイクルシステムの導入地域（小学校区）を大阪市内の半数まで拡大

2. 実施期間（4年目）以降

- リサイクルシステムについて市域での導入地域をさらに拡大
- 設備の導入について地域金融機関の制度融資「SDGsビジネス支援資金」の活用を図り、大阪府域にも導入拡大

◆事業スキーム図

